

# 千年の森便り No.130

2014.6.20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennenomori@hotmail.co.jp](mailto:sennenomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

6月14日(土曜日) 快晴

参加は赤松、新井孝男、新井通子、石松夫妻、伊藤、苅米、久我夫妻、坂本、福島、根本、松田、真鍋、山口、山本の16名。初夏の快晴の森で、ニホンジカ生息調査、ヒメコマツの手入れ、今冬伐採コナラの柵外への搬出と木工、植物やきのこの観察・撮影、野鳥観察など楽しみ、快い汗を流しました。(真鍋)



初夏の明るい日射しを浴びて

### ○ニホンジカ生息状況調査

10:10 から約30分間、島内を7コースに分かれて一斉に踏査し、ニホンジカの生息状況調査を行いました。結果は、ニホンジカの目撃はなし、足音や声も確認できませんでした。しかし、新しい足跡やフンが島内の数箇所で見つかったことから、この時期はニホンジカが島を利用していることがわかりました。(福島)



調査第2グループは禁断の岬コース

### ○ヒメコマツの手入れ

2010年に植栽したヒメコマツが、灌木や雑草等に被圧されてきたため刈り払い等を行った。多くの関係者が手塩にかけた貴重なものであることから、ヒメコマツの様子を確認しながら灌木類を取り除く「控えめ」な手入れにとどめた。姿を現したヒメコマツは、全体に成長は良好と思われるが、一部は枯損や被圧されているものも見受けられた。今後とも、関係者と十分な調整をとりながら手入れを行い、房総のヒメコマツをしっかりと見守っていききたい。(伊藤)



ヒメコマツを被圧する灌木と下草刈り

### ○伐採木の搬出・木工

今年の冬設置した植生保護柵内に置き去りにになっていた伐倒コナラのうち長さ1.2m~5mの丸太を苅米さん持参の滑車を使い、9本をフェンス脇



滑車とコロで重い丸太を移動



および場外に移動させました。丸太の重量はおよそ100kg~300kg程度であったが滑車とコロでスムーズに移動できました。保護柵内の1.2m、1.5m、1.8mの長さの物を、苅米さんのチェーンソー技で見事に半割りに成功しました。半割りした1.5m

材の半割りやベンチづくりの材料を使い、先月押しつぶされた竹製ベンチに代わる木製のしっかりとしたベンチを2基作成しました。今回作業に当たったのは苅米、新井、山口、福島、根本の5人衆でした。お疲れ様でした。次回は残りのおよそ10本を同じように移動し、保護柵内を整備したうえで5メートル四方に紐で区別ける作業を行う予定。

付帯作業としてトイレ脇の朽ちた階段を松の丸材で補修しました。(根本)

## ○マダケ調査

マダケは状況に応じて6月～8月までタケノコが生えるため、今回の調査では昨年生えた竹13本を確認した。今年のタケノコはまだ1本しか姿を見せていなかった。マダケ保護柵を2007年に設けて以来、発生竹に番号を付け管理しているが、7年目を迎えても地上部が枯損したものは未だにない。調査のあり方、保護柵の設置方法などで議論があり、今後更に詰めることとなった。(伊藤)

## ○植物観察

10mを超える高木にイワガラミが絡みついて、バッチリ花を咲かせていました。豊英島で発見されて3年目でしょうか、花の姿を正確に捉える事が出来ました。5月にホテイ岬、千年広場脇、巨木林保護柵内に蕾を着けていたツチアケビは全て黒変又は褐変して枯れ、吊橋近くの保護柵内に1株だけ健在で開花待ちしていました。昨年の十数株が一株に。このまま島から消えるのか？原因は？地下の状態は？気になります。ケイワタバコの花を見るため、健脚組は垂直に近い急斜面を降りましたが、残念ながら蕾でした。活動終了後島対岸で観察したケイワタバコは美しい花を着けていました。(真鍋)

(ケイワタバコ花は島対岸で撮影)



イワガラミ(6/14 福島)



ツチアケビ(6/14



ケイワタバコ蕾(6/14 福島)



ケイワタバコ花(6/14 真鍋)



イチヤクソウ(赤松

イチヤクソウ：痩せ株ばかりですが花盛りでした。ウメガサソウ：花後株5、周囲に来年が楽しみな若株も多くみられました。オオバノトンボソウ：蕾株多数あるも虫や動物から逃れて開花出来るのは果たして何株でしょうか。ネジキ：地面にこぼれていた白くて丸い物の真上を見上げるとネジキでした、まだいくつかの花房が残っていました。(新井通子)

## ○キノコ観察

梅雨に入っても肌寒い日が続いているせいか、所謂“柔らかいキノコ”(ハラタケ類のキノコ)の発生が遅れている様です。その中で特筆すべきは、早くもミネシメジが多数発生しておりました。根本さんが見つけたコガネテングタケらしいきのこは、山本さんが吹春先生に見て戴いた結果、ガンタケでした。オニフウセンタケらしいものは、ミドリスギタケもしくは、チャツムタケ属種ではとのことでした。

本日の観察したキノコは、ケガワタケ・ガンタケ・オオホウライタケ・ミネシメジ



ガンタケ(6/14 松田)

・ミヤマザラミノヒトヨタケ・ミドリスギタケまたはチャツムタケ属種・

ベニタケ属種・ウチワタケ・ヒイロタケ・カワラタケ・ハカワラタケ・ホコリタケ・ノウタケ・ゴムタケ・

クロコブタケ以上15種です。(松田)

## ○野鳥記録

・千年広場にホオジロ；千年広場で次月の活動内容などを話している時、頭上からホオジロの声が聞こえてきました。ホオジロの主な生息地は草原や農耕地と、それに接する林縁などですから、千年広場のような林内にいるのは珍しい事です。福島さんの説は広場近くのコナラ林が伐採されて、草原的な開けた空間が出来たので、やってきたのでは無いかと言うものです。尚、過去のホオジロ記録は吊り橋を渡った対岸の農耕地周辺から聞こえてきた囀り声だけでした。

・トビは巣立ち完了? ; 今年発見されたトビの巣は空になっていました。5月の活動日には白い綿毛の雛がいましたが、それから1ヶ月経過しているので無事に巣立ったものと思います。(坂本)

## ○水辺清掃

毎年6月に水辺の清掃を行っているが、今年はこれまでで一番ゴミが少なかった。ハイカーや地域住民のマナーの向上に伴い、大雨の後などに流れてくるゴミが減少したと信じている。(伊藤)

## ○シマヘビを発見! スズメバチの巣も、対岸にはヤマヒル

・昼食後に広場のまわりを歩いていたら、広場横のツチアケビネット近くでシマヘビを見ました。すぐに追いかけてみたが、落ち葉の下へ逃げ込んでしまい写真を撮ることはできませんでした。シマヘビは初記録です。たぶん(福島)。

・久我則子さんは物置整理中、スズメバチの小さい巣を発見しました。トックリ型をしたコガタスズメバチの巣でした。(真鍋)

・対岸でケイワタバコを観察し、帰宅してよく点検したら案の定、ヤマヒル一匹に踵の上を攻撃(口撃)されていました。(松田)



コガタスズメバチの巣

6月14日の豊英湖



## お知らせ

### ○7月の定例活動日

7月21日(月、海の日)、9時30分 県民の森駐車場集合、光環境調査、環境整備(観察路、ベンチ、物置きなど)植物調査、植生(食害)調査、野鳥調査など計画しています。多くの会員の参加をお待ちしています。植物調査等のため臨時活動日を計画する場合は1週間ほど前にお知らせします。

### ○ちば里山カレッジの開催 里山ボランティア養成コース

都市近郊の みどり(里山)保全に必要な知識や 技能を座学 とフィールド実習を通して、継続体系的に 学び、里山活動に参加する市民を養成します。

25年度は千年の森会員の新井通子さん、根本さん、4月入会の赤松さんが受講され、大変有益と好評でした。

開催: 第1回7月26日(土) ~ 第10回11月29日(土)

詳しくはチラシをご覧ください。

[平成26年度里山カレッジチラシ表面](#) [平成26年度里山カレッジチラシ裏面](#)

### ○里山宣言IN君津

5月18日君津で開催された里山シンポジウムにおいて「ちば里山宣言 in 君津」が採択されました。本誌5月号に掲載出来なかったことをお詫びし、次頁に掲載します。

# ちば里山宣言 in 君津

私たちは、「里山・裏山・命山 その恵みと創造—見る、聞く、触れる、味わう、嗅ぐ、そして、作る、遊ぶ、学ぶ—」をテーマに第11回里山シンポジウム in 君津に集いました。

里山と地域にかかわり活動する私たちは

「里山の持つ魅力と人をはぐくむ底力」について語り合い

「里山に託す私たちの未来」を共有し、次のとおり宣言します。

里山は、先人が自然に働きかけ創り上げた

豊かな生活空間です

里山は、水・薪炭・萱・山菜・落ち葉・緑肥・木材など

多様な恵みをもたらす命山です

里山は、季節ごとに姿を変え、心をいやす

美しい景観、心のふるさとです

東京湾越しに富士を望む君津は

山と水に恵まれ、田園が広がる里山の象徴です

かつてトキとコウノトリが飛びかった君津

人と動物、植物が織りなす農・林・漁業を営む伝統の景色です

いま里山の多くが、人の手が遠ざかり

賑わいを忘れ、荒れ、寂しく、沈んでいます

私たちは今、里山の恵みの偉大さにきづき

再び里山に地域の誇りと命の賑わいを求めて行動をはじめました

私たちは、里山に親しみ、里山に抱かれ、里山にいやされ

里山文化に学び、里山に働きかけ、里山を守ります

私たちは、人と自然が一体となった

生物多様性の宝庫・里山の再生と再創造を進めます

そのために、私たち市民と市民グループは

国・県・市町村、企業・学校・公民館・博物館などと共に

広く海外の人々とも結び、知恵を出し合い、協働し

里山を子どもたちそして未来に生きる人たちに引き継ぎます

平成26年5月18日

第11回里山シンポジウム in 君津 参加者一同